

<b>授業科目名:</b> 協働分野セミナーⅥ	<b>単位数</b> 1 単位	<b>担当教員名:</b> 専任教員 <b>担当形態:</b> 共同
<b>配当年次:</b> 3 年次前期・3 年次後期	<b>授業形態:</b> 演習	<b>開講形態:</b> 指導教員全員による研究指導 メディア(一部)
<b>授業のテーマ及び到達目標:</b> 専門分野における自分自身のオリジナルな研究成果に基づいて、博士論文を完成させる。その意義や内容を同じ分野の専門家だけでなく、異分野の専門家や政策担当者等にも伝える能力を獲得する。		
<b>授業の概要:</b> 博士論文を完成させる。主旨導教員と2名の副指導教員によるトリプレット研究指導体制のセミナーにおける博士論文内容報告の機会を利用して、ドラフト執筆→報告と教員や研究室員によるコメント→リバイズ(追加調査/実験を含む)というサイクルを通じて、論文を完成させる。		
<b>授業計画:</b> 主旨導教員の調整のもと、3名の指導教員が連携し、セミナーを開催するが、実質的に主旨導教員による個別指導の性格が強まる。副指導教員は必要に応じてセミナーに参加し、研究発展に向けたコメント・助言を行う。博士論文提出に向けて執筆作業の比重が大きくなるが、適宜、主旨導教員の研究室単位のセミナーで内容を報告する。さらにセミナーでの議論を日常的なラボワーク/研究活動にフィードバックさせ、追加調査/実験を行い、博士論文の完成度を高める。 博士論文をファイナライズする過程では、主旨導教員や研究室員のコメントはもとより、副指導教員からのコメントも取り込んで、博士論文の専門性と実装性を高める。 主旨導教員または副指導教員として、博士論文の完成に向けて各教員は以下の研究分野の観点から助言・指導を行う。 【東京外国語大学】 (武内進一)地域動態論、アフリカ研究、国際関係論、紛争 (中山智香子)グローバルスタディーズ、社会経済学、社会経済思想、経済史、経済人類学 (李孝徳)カルチュラル・スタディーズ、表象文化論、ポストコロニアル理論 【東京農工大学】 (千年篤)国際農業開発、農業発展論、農業経済学、所得格差、貧困 (野村義宏)生物資源機能化学、コラーゲン、ケラチン、機能性食品 (香取浩子)エネルギー科学、磁性体における相転移現象、局在スピン系磁性、遍歴電子系磁性 (三沢和彦)生体医用システム、超高速フォトンクス、超高速時間分解分光、非線形光学 【電気通信大学】 (山本佳世子)社会システム工学、空間情報科学、都市・地域計画学、GIS ビッグデータ、環境・防災 (橋山智訓)知能情報学、ソフトコンピューティング、ヒューマンインタフェース・インタラクション (横井浩史)計測・制御、節電義手、節電センサー、サイバネティクス、臨床応用		

(岡田佳子)光工学、光エレクトロニクス、バイオエレクトロニクス、ナノフォトニクス

テキスト:特になし

参考書・参考資料等:特になし

学生に対する評価:セミナーへの参加及び貢献等により総合的に評価する。